

第4学年社会科学学習指導案

日時：平成24年9月28日（金）3校時

児童：男子11名 女子11名 計22名

授業者：本田裕美

1 単元名 7 昔から今へと続くまちづくり（教育出版 P84～105）

2 単元について

（1）教材について

本単元は、学習指導要領の内容（5）「地域の人々の生活について、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」を受けたものである。

本単元では、地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、普代水門と太田名部防潮堤の建設に尽力した普代村元村長 和村幸得氏を取り上げる。普代水門は本校から150メートルほどの距離に位置し、太田名部防潮堤は、太田名部地区の児童が毎日通る、馴染み深い建造物である。普代水門と太田名部防潮堤は、東日本大震災の津波から村を守り、死傷者、家屋被害をゼロに抑えた施設として、震災後、メディアに取り上げられた。今回の津波は高さが20メートルあり、普代水門を越えたものそこから上流300メートルで止まり、小中学校を始め村の中心部の被害を抑えた。太田名部防潮堤では、津波は8割ほどの高さに達したが越えることはなく、集落に一滴も海水を流さなかった。これらのことから、普代村のまちづくりを語る上で、津波対策の水門と防潮堤は重要な題材であるといえる。

普代村は明治29年と昭和8年の大津波で、大きな被害を受けてきた歴史がある。元村長の和村氏は、「住民の命を津波から守りたい」という強い信念をもって、水門と防潮堤の高さを15メートルにすることにこだわり、その建設を推し進めた。どんな反対にあっても、正しいと思ったことを最後までやり通し、その結果、自分達の生命を守ってくれた先人の思いを学習することは、普代村に暮らす子どもにとって、地域への誇りと愛情を育むことができ、さらに、地域社会の一員として、地域の未来を考える素地を培うことができると考える。

（2）児童について

児童は、1学期に「安全・健康なくらしとまちづくり」の学習において、事故や災害、廃棄物の処理という課題に接し、関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の工夫、健康な生活を営むための対策や事業について考えてきた。特に、施設見学、校内の設備調べ、まとめの新聞作りの学習に意欲的に取り組んできた。また、消防士・消防団員のゲストティーチャーをお呼びし、地域のために働く人の思いや生き方について、直接話を聞いたり質問したりすることで、身近で働く人々の仕事と地域への思いや願いを知ることができた。しかし、調べてきたことを比較したり関連付けたりして考えることや課題意識をもって追求する力はまだ十分であるとはいえない。また、資料を読み取る力や、考えたことを表現する力には個人差がある。

地域の先人について意識調査をすると、ほとんどの児童が「普代村の昔からあるものについてもっと知りたい、遺していきたい」と答え、地域社会を愛し、誇りをもって生活している。しかし、津波の石碑の存在を知っている児童は6名にとどまり、昔から残されている史跡の知識はほとんどない。和村幸得氏の名前を知っている児童は1人もいなかった。普代水門は知っているものの、なぜ建設されたのかその背景まではほとんどの児童が知らない。また、太田名部防潮堤は、太田名部地区以外の6名の児童が知らなかった。

学級集団としての学級の様子は、素直な子ども達が多く、指導されたことを一生懸命やろうとする粘り強さがある。休み時間には、友達との関わりの中で自分の考えを積極的に表現している。しかし、授業では、自分の考えをまとめることができなかつたり自信がなかつたりすることから発表に消極的で、挙手する児童が固定化している。また、友達の意見を聞く際に、観点を絞って聴くことができず、賛成か反対か意思表示するスキルが不足している。

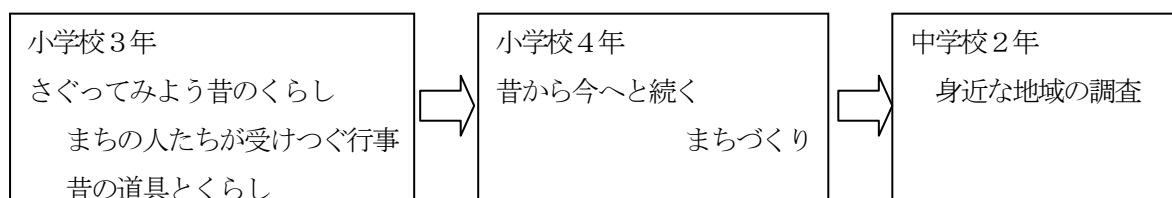
(3) 指導に当たって

指導に当たっては、自分の足で実際に防潮堤と普代水門を歩き、上を歩いたときの高さ、下を歩いたときの圧迫感を感じ取る中で、自分達で疑問をもち、興味関心を引き出す。また、身近な写真や資料を提示することでも、興味関心をもたせることができる。自分達を感じた疑問などから学習課題を捉え、気付いていない部分には教師から疑問を投げかけ、意欲的に解決できるようにする。その際、ポイントを絞って疑問を投げかけることで、むやみに疑問だけを増やすことのないように配慮する。

疑問を解決する際には、適した資料を教師側から厳選して提示したい。与えられた資料から一人学びで解決する時間と、友達と話し合う学び合いの時間を場面に応じて取り入れ、情報を正しく読み取る能力を身に付けさせていきたい。また、毎時間のまとめを、分かったことと感想の2段落構成で自分の言葉で書く活動を通して、考えたことを表現する力を育てていきたい。

キャリア教育の視点「身近で働く人々の様子が分かり、その人の思いや願いに対して興味・関心をもつ。」に関わって、単元を通して、ゲストティーチャーや地域の方のインタビュー映像など、人から話を聞いて学習することを意識して取り入れた。実際に和村氏を知る地域の方の話を聞くことで、身近な問題として深く考えることができると考える。また、和村氏の考えを想像しながら、地域に対する思いや願い、信念をもって取り組む先人の生き方を知ることで、公共のために役立つことの大切さに気づき、自己の働きについて考えるきっかけとしたい。

(4) 単元の関連と発展



3 単元の目標と評価規準

地域の発展に尽くした先人の具体的事例を調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
地域の発展に尽くした先人の働きに関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の人々のよりより発展を考えようとしている。	地域の発展に尽くした先人の働きから学習問題を見いだして追究し、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	地域の発展に尽くした先人の具体的事例を的確に見学・調査したり、年表などの資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を理解している。

4 単元の指導・評価計画（9時間扱い）

※「キャリア」の欄は「勤労観・職業観」「豊かな人間性」に関わる項目があれば記載

時間	目標	評価規準	関	思	技	知	キャリア
1	○津波から村を守った普代水門と太田名部防潮堤と和村氏について資料を読み取り、興味をもつことができる。	・資料から普代水門と太田名部防潮堤の概要について調べている。 ・水門と防潮堤、和村氏について関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	○		○		
2	○太田名部防潮堤を実際に歩き、どんな場所か確かめることができる。	・太田名部防潮堤を実際に歩いてみて、上と下での違いをくらべるなどして疑問に感じたことをもとに、学習問題を考えることができる。	○				
3	○普代水門を実際に歩き、どんな場所か確かめることができる。	・普代水門を実際に歩いてみて感じたことをもとに、学習問題を考えることができる。 ・水門を観察したり、管理している人にインタビューしたりして、情報を収集してノートにまとめることができる。	○		○		
4	○実際に歩いて疑問に思ったことや更に調べたいと思ったことを整理し、学習問題をつかむことができる。	・疑問に思ったことや調べたいことを整理し、学習問題をつかむ。			○		

5 本 時	○和村氏が防潮堤と水門を建設する理由となった、過去の2度の津波の被害の様子を理解することができる。	・過去の普代村の津波被害について理解している。 ・和村氏が防潮堤の建設を行おうとした理由について、過去の津波被害と関連付けて考えることができる。	○		○	勤
6	○住民の反対にあった時の和村氏の気持ちを考えるとともに、水門と防潮堤の建設を推し進めた村長の思いと願いを理解することができる。	・建設決定までの過程における和村氏の苦労や努力について理解している。 ・住民の反対や、困難に立ち向かった気持ちを想像することから、先人の思いや願いについて考えている。	○		○	勤
7	○これからの普代村と、住民の津波への思い、和村氏の願いについて考えることができる。	・水門と防潮堤の完成がどのように村を守ってくれたのか、またそれらに頼るだけではなく、津波を語りつぎ、避難することの大切さを考え、ノートに書き表している。	○			勤
8 9	○普代水門・太田名部防潮堤・和村氏について紙芝居にまとめることができる。	・普代水門と太田名部防潮堤、和村氏について分かったことや、語り継いでいくこと大切さを紙芝居にまとめて発表している。			○	

5 本時の指導

(1) 目標

和村氏が防潮堤と水門を建設する理由となった、過去の2度の津波の被害の様子を理解することができる。

(2) 評価規準と手立て

	満足できる	「満足できる」に満たない児童への手立て
思考・判断・表現	和村氏が防潮堤の建設を行おうとした理由について、過去の津波被害と関連付けて考えることができる。	ゲストティーチャーの話を想起させ、津波被害の悲惨さを考えさせる。
知識・理解	過去の普代村の津波被害の状況や、水門と防潮堤の建設理由について理解している。	資料を読み取った板書をもとに、津波被害の大きさを確認させ、水門と防潮堤の建設理由と関連があることを助言する。

(3) キャリアの視点

キャリアの力：◎人生設計力○勤労・職業観

「身近で働く人々の様子が分かり、その人の思いや願いに対して興味・関心をもつ。」

キャリアのねらい：和村氏が防潮堤と水門建設に取り組もうと思った理由を考え、村長として普代村の未来にどんな思いや願いをもっていたのかを知る。

本時の指導では、津波の体験をした地域の方の話聞くことで、津波被害の悲惨さを実感し、強い信念をもって津波から守られる村づくりに取り組んだ和村氏の地域に対する思いや願いにより近づけるようにする。

(4) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 キャリアとの関連 評価																
導入 5分	1 前時の振り返り 2 本時の課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">○和村村長はなぜ防潮堤を造ろうと思ったのだろうか。</div>		・前時に考えた学習問題を想起させ、本時の課題を確認する。																
展開 30分	3 津波被害の様子を予想させる。 ○過去に起こった大津波とはどんなものだったのか、予想して人数や戸数を書き込みましょう。 4 津波被害について知る ①資料から被害のデータを知る。 ②昭和三陸津波の体験談を聞く。 ○話を聞いて、どんなことを思いましたか。 ③気になったこと、疑問に思ったことを質問する。 ④和村村長の思いを知る。	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口</th> <th>死亡・ 行方不明</th> <th>流失倒壊 家屋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>明治 29 (1896)</td> <td>2038 人</td> <td>(予想) 1010 人</td> <td>258 戸</td> </tr> <tr> <td>昭和 8 (1933)</td> <td>不明</td> <td>137 人</td> <td>(予想) 201 戸</td> </tr> <tr> <td>平成 23 (2011)</td> <td>3065 人</td> <td>1 人</td> <td>0 戸</td> </tr> </tbody> </table> ・思っていたよりもひどい被害だ。 ・こわい。 ・悲しい。		人口	死亡・ 行方不明	流失倒壊 家屋	明治 29 (1896)	2038 人	(予想) 1010 人	258 戸	昭和 8 (1933)	不明	137 人	(予想) 201 戸	平成 23 (2011)	3065 人	1 人	0 戸	資料：普代水門石碑の写真 ・年表に掲示し、視覚的に捉えられるようにする。 資料：昭和三陸津波の被害写真 真を掲示 <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> キャリアとの関連 津波体験をした地域の方の話聞くことで、津波被害の悲惨さを実感し、和村氏の地域に対する思いや願いにより近づけるようにする。 </div> ゲストティーチャーの活用
	人口	死亡・ 行方不明	流失倒壊 家屋																
明治 29 (1896)	2038 人	(予想) 1010 人	258 戸																
昭和 8 (1933)	不明	137 人	(予想) 201 戸																
平成 23 (2011)	3065 人	1 人	0 戸																

	<p>5 和村村長の思いについて考える。</p> <p>○和村村長は、なぜ防潮堤を造ろうと思ったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2度とこんな津波の被害は見たくない。 ・ 津波からみんなを守りたい。 	<p>【知・理】水門と防潮堤の建設理由となった過去の普代村の津波被害の状況を理解している。（発言・ノート）</p>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>6 自分の考えと感想をまとめる。</p> <p>7 自分の考えを発表し合い、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2度の津波では、たくさんの方が亡くなり、家や船が流された。津波からみんなを守るために、和村村長は防潮堤を作ろうと思った。</p> </div> <p>8 次時の学習内容を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>過去2回の津波では、たくさんの方がなくなったり、家を流されたりした。だから、和村村長が防潮堤を立てて津波から村を守ろうとしたことが分かった。</p> <p>自分の家族がなくなったら悲しいと思う。だから、水門や防潮堤ができてこの間の津波から守ってもらえてよかった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えと感想をノートにまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【思・判・表】防潮堤の建設をしようと思った理由について、開発前の津波被害の様子と関連付けて考え、発言したりノートに書いたりしている。（発言・ノート）</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>キャリアとの関連</p> <p>自分との生活に関連させながらまとめ、和村氏や地域の人の願いを考えさせる。</p> </div>

(5) 板書計画

